

六一六番

つるぎたち 剣 大刀 名の惜しけくも 我はなし 君に逢はずて 年の経ぬれば

六一七番

あしへ 蘆 辺より 満ち来る潮の いやましに 思へか君が 忘れかねつる

おほみわのいらつめ 大神女郎、おほどものすくねやかもち 大伴宿禰家持に贈る歌一首

六一八番

よなか さ夜中に 友呼ぶ千鳥 物思ふと わびをる時に 鳴きつつもとな